



バラの高温対策について

北谷 友梨佳

近年、高温期間の長期化により、バラでは初夏（5月や6月）から短茎化や花の小型化などの障害が発生し、品質や収量に影響を及ぼしています。また、長期的に高温にさらされることで、株にダメージが蓄積し、秋以降の出荷にも影響が及んでいます。ここでは、高温対策の1つとして利用が進んでいる遮熱塗料について、適切な使用方法とともに紹介します。

1. 遮熱塗料とは

遮熱塗料とは、ハウスの屋根面や側面に吹きかけて使用する塗布剤の一種で、複数の商品が流通しています。光合成に有効な光は多く透過し、温度上昇に影響を与える熱線は多く反射するため、ハウス内の温度上昇を抑え、植物にとって成長しやすい最適な光環境を作ることができます（図1）。温度上昇を防ぐために使用される塗料として、他に遮光塗料がありますが、遮光塗料は、熱線だけでなく、光合成に必要な光までも反射してしまうため、ハウス内が光不足に陥りやすくなります（図2）。そのため、温度上昇を抑えつつ光をできるだけ確保したいと考える方に おすすめなのが遮熱塗料になります。

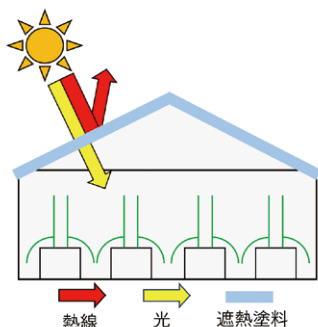


図1 遮熱塗料の太陽光反射

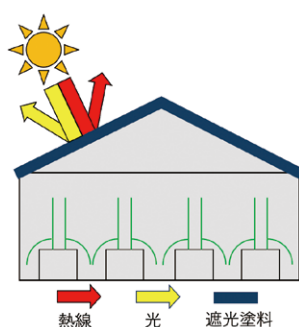


図2 遮光塗料の太陽光反射

2. 遮熱塗料の適切な使用時期

遮熱塗料や遮光塗料は、梅雨明けに塗布する方が多いかと思いますが、しかし、近年では初夏から高温障害が発生するようになっており、これまでより早めに対策をしていく必要があると考えられます。

今年、遮熱塗料の適切な使用時期を検討するため、4月に塗布したハウスと5月に塗布したハウスを設け、塗布時期の違いによる品質や収量への効果を比較しました。その結果、6月から9月にかけての出荷物について、4月に塗布したハウスの方が、茎長が長くなり、茎径と花径も大きく、全体的にボリュームがあることが分かりました（図3、写真1）。また、葉やけなどの障害の発生も抑えられ、品質の向上が認められました。遮熱塗料を4月に塗布することで、4月時点からハウス内温

度、培地温度、植物体温度を低下させることができ、それにより日中の遮光カーテンの使用時間の削減が可能となり、適温域で光合成に必要な光を確保できる時間が増えたことで、バラの品質を向上させることができましたと考えられました。

遮熱塗料の効果が期待できる期間は塗布後4か月ほどですが、降雨によって流れ落ちてしまうため、4月に塗布した場合、梅雨を過ぎると効果がほとんどなくなることが予想されます。そのため、梅雨明けに、再び遮熱塗料または遮光塗料を塗布することを推奨します。また、10月中旬になっても塗料が落ちていない場合は、専用の除去剤で落とすようにしましょう。

今回、遮熱塗料の使用時期について検討し、4月から塗布し、遮光カーテンの使用を控えることで、初夏から秋口の品質向上に効果があることが明らかになりましたが、7月～8月の猛暑によるダメージを防ぐためには、遮熱塗料、遮光塗料に加え、外気導入やミスト、夜冷などを組み合わせて高温対策をしていく必要があります。

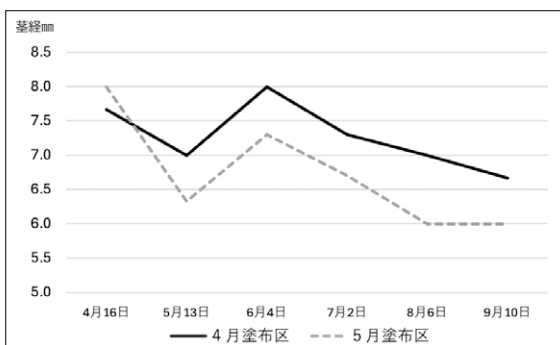


図3 塗布時期の違いによる茎径への影響

※4月8日または5月3日に「レディヒート」2.5缶/10aを塗布、7月3日に「レディソル」0.5缶/10aを塗布



写真1 塗布時期の違いによる花径への影響(2025年6月11日撮影)
(品種：アバランチェ)